

例会「1000の道 偕楽園・千波湖など水戸歴史の道」報告

開催日：2022年8月3日(水) 集合場所：JR常磐線水戸駅南口

集合時間：8時30分～9時 開会式：9時～9時15分 終了後スタート

コース・距離：水戸駅→明利酒類・別春館→吉田神社→薬医門→水戸城跡通り→旧弘道館
→水戸芸術館→水戸八幡宮→保和苑→偕楽園→千波湖→水戸駅 16km

ゴール時間：14時45分頃 参加者：21名(会員19名)

天候：晴れ／曇り

ウォーキング状況等

本会で実施中の「みんなで歩こう水戸街道」のゴール水戸市を舞台とする例会を、新日本歩道紀行1000の道(歴史の道)の助けを借りて、実施することにしました。ご承知の通り、新日本歩道紀行1000の道は、「地域の観光促進」、「商工物産の振興」、「歩くことによって健康作りに寄与」を趣旨として自治体から応募された道。「水戸芸術館」は自治体の思い入れが窺えるし、江戸時代から続く酒造元の梅酒・と酒の資料館「別春館」は会員のお薦めによるもので、1000の道の精神に合うものだ。さあ歴史の香りが漂う水戸市のタウンウォークをスタートしよう。

最初の行先は駅近くの別春館。館内見学と説明及び試飲を受け、いつもと違った新鮮な気分で新たな一步を踏み出す。1529年創建の薬王院、大和時代創建・鎌倉時代は「常陸第三宮」として多くの信仰を集めた吉田神社、江戸街道起点の碑を経て、石垣のない土づくりの水戸城跡に着く。現存する薬医門(本丸)、水戸藩校弘道館(三の丸)を中心に、整備された城壁通りを水戸徳川家の隆盛を極めた時代を思い浮かべつつ、皆さん興味深く話しながら散策。城跡を抜け中心街を歩いていると水戸芸術館現代美術センターの捻れたようなタワーが間近に見え、真下のホールで小休止。その後、水戸八幡宮～保和苑～回天神社と続くロマンチックゾーンに向かう。

本殿が安土桃山創建当時の姿を残す水戸八幡宮で参拝、徳川光圀公が愛された庭で、あじさいで親しまれている保和苑にて昼食、幕末の動乱期に殉じた水戸藩士を祀る回天神社をお参りして、水戸市中の歩きを再開。県立博物館を過ぎ、偕楽園の有料化のため、園の回りを歩いて義公(第2代徳川光圀公)・烈公(第9代徳川齊昭公)の徳を慕って祀った常磐神社へ。フィニッシュは水戸市のシンボル千波湖。那珂川水系に属する堰止湖で、偕楽園の借景としても価値があること頷ける。その景観を楽しみながら外周の北側の遊歩道を歩き、桜川沿いの堤防上を歩いて水戸駅にゴール。お疲れ様でした。

うだるような暑い中でのウォーキングでしたが、大多数の方がゴールできて安堵。地元加盟団体の会員でもある方のコースアドバイスにも助けられました。今回の例会を担当して、郷土の姿を垣間見ることができたのは、ウォーキングの世界に入ったお陰だ。別春館の名は、黄門様が西山荘に隠居後、冬の寒い日夜等には、皆でお酒を飲むことを楽しみにしていて「温かな酒を飲むとまるで春になったようだ。杯の中には別の春が入っている」と仰った逸話に因んでいるそうです(パンフより)。ウォーキングも皆で楽しく歩いていれば、何か良いこと・課題の解決策が浮かんでくるような気がしますね。さすが、郷土の誇り水戸黄門様のお言葉だ、勇気づけられます。

(戸田)